

平成 24 年 10 月 12 日 (金)  
読 売 新 聞

宇都宮市

# 介護予防、独協医大と研究

## 通所型事業の有効性検証

宇都宮市と独協医大(壬生町)は、高齢者が要介護状態にならざり、自立した生活を送れるよう目指すことを目指す介護予防に関する共同研究を始める。同市が実施している介護予防事業を医学的に検証することで、より効果の高いプログラムの開発を目指す。市高齢福祉課は「超高齢化時代が迫る中、事業を充実したものにするためにも、専門的な評価を受けることで、有効性を多くの人に知ってもらうには」としている。



宇都宮市が実施しているげんき応援教室(1日、宇都宮市保健センターで)

研究は、簡単な運動や頭の体操などを通じて、運動機能の向上や認知症予防を目指す「通所型介護予防事業」が対象。同大医学部地域医療教育学講座・リハビリテーション科学講座の古市照人教授と、同大看護学部の高橋幹子助教が中心となって行う。

研究期間は3年間。1年目の今年度は、同事業に昨年度参加した約500人にアンケート調査を行い、①生活環境②継続して運動に

取り組んでいるか③今後の目標などを把握する。最終年度の2014年度に、それまでの研究結果を反映した介護予防プログラムを提案する予定になっている。

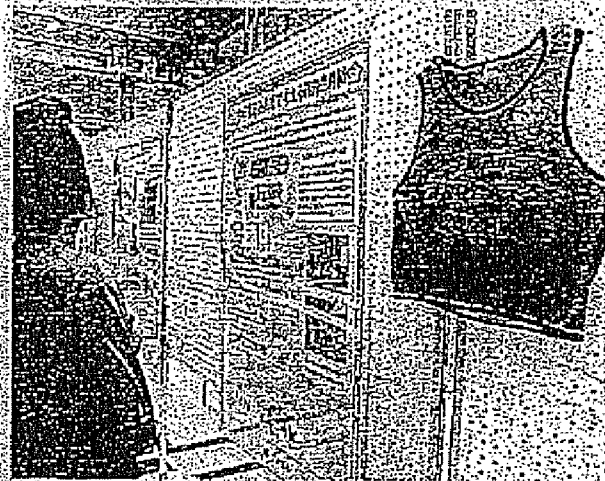
同事業は、「げんき応援教室」(1コース10回)と「元気アップ教室」(同6回)があり、昨年度、「げんき応援教室」は計2705人、「元気アップ教室」には計893人が参加した。市はこれまで、教室

に取り組んでいるグループも気軽に続けられるようなプログラムを作りたい」としている。

平成24年 9月20日(木)  
下 野 新 聞

# 認知症に理解と支援を

## 宇都宮市 あすまでパネル展



認知症への理解を求めるパネル展

【宇都宮】認知症にせむ社会を目指す  
なつても安心して暮らさんと、市は21日まで、認

知症への正しい理解と支援を呼び掛けるパネル展を市役所1階市民ホールで開いている。

市は昨年度から9月を「宇都宮市みんなで考える認知症月間」と決め、「認知症の人と家族の会東支部」（金沢林子代表）と連携して啓発活動を展開。

パネル展は認知症の基礎知識や早期発見の大切さなどを訴えた10枚を展示。

会場では同支部メンバーが訪れた人の声に耳を傾け、必要に応じてアドバイスをするなどしている。

夫がアルツハイマー病を患う市内女性(64)は「(パネルは)勉強になる。市全体で認知症を受け入れてくれる地域になれば、うれしい」と話していた。

22日には一般市民対象の「認知症サポーター養成講座」も市役所で開く。午後1時半〜同3時。

問い合わせは市高齢対策課 ☎028・662・2904。